

# THE KILLER WHALE TIMES

2022 年度 全日本大学選手権号

皆様いかがお過ごしでしょうか。こんにちは、タイムス班の佐藤です。

去る9月7日～11日に「第49回全日本大学選手権大会」(以下インカレ)が開催されました。

今年度は有観客での開催でした。戸田まで応援に駆けつけていただいたOG・OBの皆様、ご声援や差し入れ、ありがとうございました。

また、コロナウイルスの感染対策のため、今年もタイムトライアルが実施されました。

無事にタイムトライアルを通過し予選進出となりましたが、結果は惜しくも敗者復活戦敗退となりました。

皆様、応援誠にありがとうございました！



# RACE RESULTS

## ○チャレンジトライアル

### Time Trial E 組

Rank	Crew	B	Time
1	天本 一宏 (熊本大学)	3	7:41.07
2	岩谷 旭 (小樽商科大学)	4	7:42.98
3	森永 健太郎 (東京工業大学)	2	7:48.78
4	佐藤 駿介 (宮城教育大学)	5	7:51.01
5	高橋 爽太郎 (茨城大学)	1	8:10.71

### 第49回全日本大学選手権チャレンジトライアル

PAGE: 1

#### 男子シングルスカル TimeTrial結果一覧

2022年9月7日

#### Men Single Scull TimeTrial Result List

Rank	組-BNo.	Crew	着順	Result	Qualification	艇不足重量
1	B 3	⇒ 北野上 隼人(日本体育大学)	1	7:16.49	→Heat(T)	0
2	B 4	⇒ 奥村 晋太郎(龍谷大学)	2	7:16.66	→Heat(T)	0
3	C 3	⇒ 今別府 隼人(日本大学)	1	7:20.02	→Heat(T)	0
4	A 3	⇒ 渡辺 龍一郎(富山国際大学)	1	7:21.76	→Heat(T)	0
5	C 1	⇒ 杉浦 旭(仙台大学)	2	7:26.00	→Heat(T)	0
6	B 1	⇒ 中村 大地(京都大学医学部)	3	7:29.60	→Heat(T)	0
7	C 5	⇒ 有松 佑紘(山口大学)	3	7:31.37	→Heat(T)	0
8	A 2	⇒ 山本 晶(大阪大学)	2	7:33.77	→Heat(T)	0
9	D 1	⇒ 菅谷 永(法政大学)	1	7:35.46	→Heat(T)	0
10	B 5	⇒ 宮澤 翔也(東海大学)	4	7:36.37	→Heat(T)	0
11	I 3	⇒ 原 弘務(鹿屋体育大学)	1	7:36.39	→Heat(T)	0
12	B 2	⇒ 船越 皓太郎(新潟大学)	5	7:37.83	→Heat(T)	0
13	A 4	⇒ 石本 真碧(名古屋大学)	3	7:40.29	→Heat(T)	0
14	D 5	⇒ 細川 一穂(北海道大学)	2	7:40.90	→Heat(T)	0
15	E 3	⇒ 天本 一宏(熊本大学)	1	7:41.07	→Heat(T)	0
16	A 5	⇒ 清野 雄大(岡山大学)	4	7:41.54	→Heat(T)	0
17	F 1	⇒ 阿部 圭吏(東京経済大学)	1	7:41.68	→Heat(T)	0
18	H 4	⇒ 三浦 健太郎(慶應義塾大学)	1	7:42.41	→Heat(T)	0
19	I 4	⇒ 奥田 隆一(京都大学)	2	7:42.58	→Heat(T)	0
20	D 3	⇒ 加藤 碩二郎(名古屋工業大学)	3	7:42.93	→Heat(T)	0
21	E 4	⇒ 岩谷 旭(小樽商科大学)	2	7:42.98	→Heat(T)	0
22	C 2	⇒ 浅野 優次郎(筑波大学)	4	7:43.35	→Heat(T)	0
23	D 4	⇒ 川瀬 伸晃(立教大学)	4	7:44.46	→Heat(T)	0
24	H 1	⇒ 飛田 健大(関西学院大学)	2	7:47.11	→Heat(T)	0
25	E 2	⇒ 森永 健太郎(東京工業大学)	3	7:48.78	→Heat(T)	0
26	C 4	⇒ 近藤 海斗(明治大学)	5	7:49.09	→Heat(T)	0

## ○予選

### HeatD 組

Rank	Crew	B	Time
1	渡辺 龍一郎 (富山国際大学)	3	7:23.25
2	杉浦 旭 (仙台大学)	4	7:33.02
3	石本 真碧 (名古屋大学)	5	7:41.04
4	舩越 皓太郎 (新潟大学)	2	7:41.10
5	岩谷 旭 (小樽商科大学)	6	7:43.26
6	加藤 碩二郎 (名古屋工業大学)	1	7:45.83



## ○敗者復活戦

### Repechage C 組

Rank	Crew	B	Time
1	杉浦 旭 (仙台大学)	3	8:02.82
2	山本 昌 (大阪大学)	4	8:07.96
3	三浦 健太郎 (慶応義塾大学)	1	8:13.89
4	岩谷 旭 (小樽商科大学)	2	8:15.92
5	加藤 碩二郎 (名古屋工業大学)	5	8:16.38

# Comment

## ○岩谷 旭(4)

今回 M1X でインカレに出漕しました。4年目の岩谷です。

結果としては今回のインカレは敗者復活戦落ち。悲願だった準決勝進出は叶わぬものとなりました。

昨年に引き続き予選出場の選手を減らすために、予選の前にトライアルが行われ、予選に出られるのは上位 24 名に絞られました。

なので敗者復活戦落ちですが、戸田で 2000m レースを 3 回漕いできました。

私は今回で 3 度目のインカレ出場でしたが、一昨年は 2 レース、昨年はトライアル落ちの 1 レースのみだったため、戸田で 3 レース漕いだのは初めての経験でかなりしんどいものではありませんでしたが、とても楽しいレースばかりでした。

戸田入りしてからは茨戸との感覚や環境の違いにしばらく苦しめられました。狭いコース特有の引き波、いつもより重い水など環境に適応するのに時間を要しましたが、それでも 3 日ほど経つと徐々に慣れ茨戸と同じ位の艇速も出せるようになってきました。

簡単ですが、各レースの振り返りをしていきたいと思います。

トライアルでは、自分でも驚く程にスタートが上手く決まり、ほぼミスオールなしでゴールまで漕ぎ切る事が出来ました。途中までトップを漕いでいたものの、最後のスパートで踏ん張りきれず差されてしまいました。我ながら今までの練習の成果を全て出し切ることができた最高のレースだったと言えるでしょう。

予選ではスタートで出遅れてしまったものの、前日の課題だったスパートを修正することができ、着順は 5 着だったものの全体順位はトライアルよりも上がり、C 決勝に向けて勢いづけられたレースとなりました。

最後の敗者復活戦ではスタート待機時に徐々に逆風が強まっていき、不安を抱えながらのスタートとなりましたがその嫌な予感の的中、波によって漕ぎは崩れ艇速は落ち、何とか最下位にはならぬ様に全てを出し切りましたが実力が及ばず、私のインカレはここで終了しました。

目標としていた準決勝進出は叶いませんでしたが、これが 4 年間やってきた実力です。若干時の運に見放された感じはありますが、運をねじ伏せることができる力をつけておけばよかったです話です。

私は去年まで長い間フォアに乗っていたため、2000m を漕ぎ切れるか不安になる程、スカルが上手ではありませんでした。そんな私を戸田で勝負できるまで育て上げてくれた谷津監督には頭が上がりません。また、部活の垣根を超えた縁にも多く救われました。

応援して下さった方、早朝の並べに付き合ってくださった方等、私1人の力では戸田で3本もレースを漕ぐことすら出来なかったでしょう。この部活を通じて得られた縁無くして私のボート部人生は語ることはできません。

また私の大学生活の多くはコロナ禍でしたが、変わらぬ支援をくださったOBOGの方々、心から御礼申し上げます。

これからは私も後援会の1人として、後輩たちの行く末を陰ながら見守って行きたいと思います。

最後になりましたが、4年間支えて下さりありがとうございました！



岩谷(左)と谷津監督

茨レガの際に 1984年卒 西澤様より、スポーツドリンクの差し入れを頂いておりました！

掲載が遅れてしまい申し訳ありません。ありがとうございました！

# 監督兼ヘッドコーチ報告

監督 谷津法彦（平成5年卒）

監督報告

☆全日本大学選手権（R4.9.8～11）

今年のインカレはご周知の通り主将の岩谷がシングルスカルでの出漕となりました。艇種に関しては冬の段階でほぼ決まっていたようなものでした。コックスがゼロになったのでフォアと言う選択肢はなし。ダブルと言ってもインカレ出漕基準となるエルゴ2,000m6分55秒を切れる事が岩谷以外の下級生ではまだ厳しいだろうという判断から、岩谷にしてみれば一人でのインカレになるという事で腹は決まっていたと思われま

す。ダブルスカルでの出漕となった6/12の北大戦終了後、即インカレに向けての孤独な練習が始まりました。

この頃やったエルゴの2,000mトライアルでは6分49秒でベスト更新。身体つきや漕ぎの技術など戸田で戦えそうな雰囲気が出てきたのもこの頃です。黙々と低レート漕15kmをこなすなど練習量を増やしてきましたが、なにせ彼の場合は腰が万全でなかったのが響きました。どうしても練習量や強度を控えなくてはならない為、ある程度戦えるベースはあるものの最後に思い切り殻を破るような追い込みトレーニングが果たして出来たかどうか微妙です。持久力はだいぶ伸びていましたので、これに無酸素系パワー、特にスタートやスパートに必要なマックスの出力が伸びてれば鬼に金棒だったでしょう。ウエイトに最大筋力系、耐乳酸系を取り入れてみてはと提案したりもしました。

8月に入った頃にはブレードワークなど技術的な面ではあまり問題無いと思っていました。エントリーしてからいかに早く艇速を立ち上げるか、スタート・スタカのトップスピード向上、それを如何に落とさずにコンスタントにつなげるか、などと言った本当に感覚的な部分に磨きをかける事に集中しました。腰の状態は相変わらずですがやれる中でやっていくしかないと思っていました。

かねがね並べる相手も欲しいねと言っていたところ、自分も岩谷も気になっていた存在がいました。北大医学部0Bの杉木さんがちょくちょく練習に来ていたので、岩谷と引き合わせて練習相手になって頂きました。これが大変効果的で、もっと早く会わせておけば良かったと思いました。UTからレースペースまで色んな並べを行い、技術的な助言も頂けたそうです。インカレ直前には苦手だったハイレートでの水の掴みもかなり改善されました。並べは最高のコーチだなと思いました。

インカレは昨年同様参加人数を抑制する為、24を超えるエントリー数の艇種は予選前日の9/7(水)にチャレンジトライアルを行って、タイム順に24位までが予選に進む事が出来ます。最激戦区である男子シングルのエントリーは48クルーでしたが棄権などあって結局トライアルに臨んだのは40

クルー。エルゴの 2,000m の記録順にレースが組まれ、岩谷はちょうど 24 番目というプレッシャーのかかる位置でしたが、見事 21 番目の順位で昨年叶わなかった予選進出を果たしました（この時点でかなり自分の中でやりきった感があった事は事実です）。

恐らく海の森水上競技場（東京 2020 の会場）で今年の 5 月に行われた全日本選手権を踏襲したものと思われますが、今年のインカレは各レースが基本 6 レーンで行われ、準決勝が 12 クルーで 2 レース。そのレースで 1~3 位が A 決勝、4~6 位が B 決勝に進むこととなります。つまり最終日に進めるクルーが今まで 8 だったのが 12 になったという事です。そしてそれとは別に準決勝に進めなかった 13~18 番目のクルーは C 決勝というレースに進めるのです。予選のタイムからして準決勝は厳しくてもギリギリ C 決勝には進めるかと期待が高まりましたが、3 秒足らずで逃がしました。茨戸では腰の調子を見ながらの練習が続いていましたので 3 日で 2,000m3 本は相当きつかったと思いますが、やれることは全てやりきったように思います。

キャプテンとして商大を一身に背負って頑張ってきた岩谷には心からご苦労様と言ってあげました。ずっと遠征に付き添って身の回りのフォローをしてきた若菜、佐藤もよくやってくれました。

予選・敗復と 2 日続けて戸田に駆けつけてくれた 2006 年卒西村さん、2020 年卒高瀬さん（彼女は岩谷が 1 年生の時のトレーナーでした）、ライブ配信を観ながら応援して下さった皆様、篤くお礼申し上げます。

ご意見、ご要望などございましたら下記アドレスまでお願いします。

[n\\_tanitsu@yahoo.co.jp](mailto:n_tanitsu@yahoo.co.jp)